

## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月に開催いたします。
中間配当金 受領株主確定日	9月30日最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者にお支払いいたします。
公告方法	電子公告 ( <a href="http://www.tohoyk.co.jp/">http://www.tohoyk.co.jp/</a> ) による。 (止むを得ない事由により電子公告できない場合は、日本経済新聞に掲載する。)
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先	東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話0120-232-711
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店

株券電子化後、株主様の各種お手続きは、原則として口座を開設されている証券会社経由で行っていただくこととなるため、株主名簿管理人の「取次所」は、株券電子化の実施時をもって廃止いたします。

なお、未受領の配当金のお支払いにつきましては、引き続き株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行の本支店でお支払いいたします。

## お知らせ

※住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取請求に必要な各用紙、および株式の相続手続依頼書のご請求は、株主名簿管理人のフリーダイヤル0120-244-479で24時間承っておりますので、ご利用下さい。なお株券電子化実施後は、特別口座に記録された株式についてのお手続き用紙のみとなりますので、ご注意ください。

全ては健康を願う人々のために

## 株主の皆さまへ

第61期 第2四半期のご報告  
(平成20年4月1日～平成20年9月30日)



東邦薬品株式会社

〒155-8655 東京都世田谷区代沢5-2-1  
TEL : 03(3419)7811 FAX : 03(3414)6042  
URL : <http://www.tohoyk.co.jp/>





Total commitment to good health

## 時代の変化の波を見極め、 新しい時代を創造していきます。



代表取締役社長

濱田 矩男

### Q1

第2四半期の業績はいかがでしたか？ 要因と合わせてお話しください。

#### 売上高は過去最高を記録



この上半期の国内経済は、米国のサブプライムローン問題を発端とする金融不安や株式市場の不透明感、原油やその他商品価格の高騰などの影響から個人消費が低迷し、景気は足踏み状態から後退局面の色合いが強まりました。

そうしたなか医療用医薬品市場につきましては、4月に平均5.2%の薬価基準の引き下げや診療報酬の改定がありましたものの、高齢化や生活習慣病関連薬剤の市場が拡大し、市場全体としては前年同期比3.7%伸長しました（クレコンリサーチ&コンサルティング（株）の推計）。また医薬品卸売業界では「医療用医薬品の流通改善に関する懇談会」の「緊急提言」を受け、未妥結・仮納入や総価取引、薬価差問題の是正に向けて業界全体が不退転の決意を持って取り組んでおり、その成果が問われる状況でもありました。

こうした環境下で当社グループは、2007年3月期からスタートした中期連結経営計画の3年目において特に「事業の正常化と効率化」「高付加価値化」「組織と人材の活性化」の3点を引き続き重要施策として位置づけ、適正利益の確保を目指した価格交渉と、顧客支援システムを柱とする提案型営業を推進しま

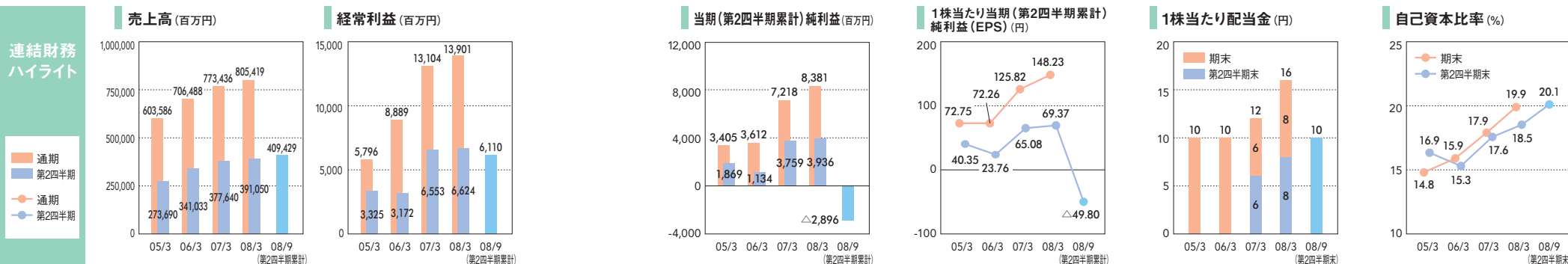
した。こうした取り組みのほか、1月に連結化した森薬品の業績や共創未来グループ各社への供給量の増加等も寄与し、連結売上高は、市場全体の成長率を1.0ポイント上回る前年同期比4.7%増の409,429百万円と過去最高を達成することができました。

しかしながら利益面では、医薬品卸間における価格競争の激化から、営業利益は4,370百万円（前年同期比6.4%減）、経常利益は6,110百万円（同7.8%減）となりました。純利益については当社の出資する（株）富士バイオメディックスの民事再生手続き申立にともなう減損損失等を計上し、2,896百万円の損失となりました。

このように上半期は利益面では厳しい結果となりましたが、サービス対価を利用料という形でいただくフィービジネスを伸ばして減益幅を最小限にとどめることができました。また未妥結・仮納入や総価取引の是正についても一定の成果をあげられるなど、将来の成長のための高付加価値化、事業正常化で大きな進捗があったと自負しています。当社グループは今後も顧客に選ばれるために卸機能と付加価値を創造し、顧客視点の提案型営業をより一層推進していきます。そしてさらなる生産性の改善による管理コストの削減、継続的な「流通改善」への取り組みを通じ、マイナス一次差益の改善に向けた交渉に努めていきます。

## 目次 Contents

- 社長インタビュー
- 第2四半期（中間）連結財務諸表 ..... 04
- 特集 東邦薬品60年の歩み ..... 06
- トピックス ..... 08
- 株式の状況 ..... 09



**Q2 グループ会社の完全統合を立て続けに実施されました。目的についてお話しください。**



**グループシナジーの最大化が目的です**

ご存知の通り共創未来グループは、「やわらかな絆」をモットーにするとともに、「全ては健康を願う人々のために」というスローガンのもと、グループ全体の経営資源を積極的に活用し、グループシナジーの最大化、ひいてはグループ企業価値の最大化に取り組んでいます。

そのため各社が地域に密着して築き上げてきた営業基盤を大切に保持しつつも、流通機能の機動力アップ、意思決定の迅速化による一層の関係強化を目的に、完全統合を積極的に進めております。その一環として10月1日付で医療用医薬品卸の小川東

邦、山口東邦を、11月1日付で須江薬品を完全統合しました。一方調剤薬局につきましては、国の医療費抑制策によって収益環境が厳しさを増していることから「薬局共創未来研究会」を発足し、当社グループの経営資源を用いて調剤薬局の課題解決を支援するとともに、取引関係の強化に向けた新たな取り組みを展開しています。調剤薬局を運営する全快堂薬局および調剤センターを5月1日付で完全統合したほか、調剤薬局の経営と医薬品分割販売事業を行うエトスを11月1日で完全統合したのも、こうした取り組みの一例です。今後も同様の統合を推進し、中長期的には、「調剤薬局版の共創未来グループ」の形成を支援するイメージを抱いています。

**Q3 最終年度を迎えた中期経営計画の進捗状況と、その後の成長戦略についてお話しください。**



**一部未達となるも、次なる成長への準備は万全**

中計最終年度となる2009年3月期の連結業績は、売上高8,400億円（前年比4.3%増）、営業利益94億円（同8.5%減）、経常利益130億円（6.5%減）、当期純利益23億円（同72.6%減）と予想しております。

売上高には新規連結会社の増加による影響を加味していますが、中計の当初目標数値を上回る見込みです。営業利益、経常利益については当期から激しさを増した価格競争等の影響から、目標数値のクリアは見込めない状況です。当期純利益については2008年3月期に1年前倒しで当初目標を達成しましたが、当四半期の特損等を主な要因とし、最終的には未達となる見込みです。

このように数値目標については一部未達となる見込みですが、中計の重要施策に基づいた当社グループの取り組みは、事業領域の拡大や事業インフラの一元化をはじめ多くの分野で

成果をあげており、次なる成長への準備は十分に整えることができたことを認識しております。



**持株会社制への移行準備を開始**

おかげさまでもちまして当社は今年創立60周年を迎えることができましたが、医薬品卸業界はまさに激動の時代を迎えています。得意先による取引先の選別強化、大手医薬品卸会社間の競争激化、医療費適正化の流れによる販売価格の低下、得意先のバイイングパワーの増大等、経営環境はますます厳しさを増しています。このような環境下においても当社グループの企業価値の増大を目指し、より積極的なM&Aを推進していくとともに、変化の激しい経営環境に迅速かつ柔軟に対応していくため、来年4月1日をもって、持株会社制に移行するための準備を始めました。これにより、グループ経営機能の強化、意思決定機能

の迅速化、機動的な企業再編・組織再編を図るほか、新たな成長の軸として調剤薬局事業を拡充していきます。持株会社とその子会社となる事業会社に分割する方式を予定していますが、詳細等につきましては、決定次第速やかにお知らせします。また当社は持株会社（東邦ホールディングス株式会社（仮称））となり上場を継続します\*。

\*持株会社制への移行は、2009年2月中旬に開催予定の臨時株主総会での承認が得られることを条件に実施します。

**Q4 利益還元方針と、株主の皆さまへのメッセージをお願いします。**



私たちは株主の皆さまへの利益還元を経営の重要課題のひとつとして位置づけ、1株当たり利益を向上させることが責務であると認識しております。将来の収益基盤の強化と市場変動に備えて内部留保の充実に努めながら、安定配当を基本に、毎期の業績変動も勘案していきたいと考えております。

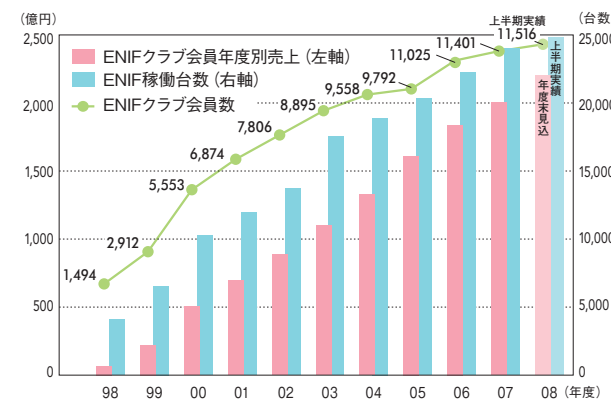
2009年3月期第2四半期決算は利益面では厳しい結果になりましたが、株主の皆さまから当社へお寄せいただいている中長期的な成長期待にお応えする意味を込めまして、当第2四半期の配当は、従来の普通配当8円に創立60周年記念配当2円を加えて10円とさせていただきます。また2009年3月の期末配当につきましても、記念配当2円を加えた10円とさせていただく予定です。これにより年間配当は1株当たり20円となり、前期に比べて4円の増配とさせていただきます。

株主の皆さまには、今後とも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

**調剤薬局・医療機関から圧倒的な支持を得る顧客支援システム**

 <p><b>ENIF</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>24,891台</li> <li>全国調剤薬局の約4割で導入</li> </ul> <p>医薬品オーダーシステム</p>	 <p><b>ENI ファーマシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>626台</li> <li>全国約340施設で導入</li> </ul> <p>医療分業支援システム</p>
 <p><b>LXMATE HeLios /SELENE</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2,088件</li> <li>患者さまの待ち時間を解消</li> </ul> <p>診療予約システム</p>	 <p><b>ENIFwin</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>337施設</li> <li>院内物流をトータル管理</li> </ul> <p>在庫管理システム</p>

**伸び続けるENIF導入実績**



	当四半期 (平成20年9月30日現在)	前中間期 (平成19年9月30日現在)	当四半期 (平成20年9月30日現在)	前中間期 (平成19年9月30日現在)
(資産の部)				
流動資産	292,338	298,472		
現金及び預金	15,837	25,845		
受取手形及び売掛金	205,806	200,253		
有価証券	499	1,497		
商品	45,384	46,342		
その他	26,952	24,927		
貸倒引当金	△ 2,142	△ 395		
固定資産	93,363	92,046		
有形固定資産	45,752	45,069		
無形固定資産	10,359	8,380		
のれん	7,959	5,618		
その他	2,399	2,762		
投資その他の資産	37,251	38,596		
その他	38,084	39,545		
貸倒引当金	△ 832	△ 950		
資産合計	385,702	390,518		
(負債の部)				
流動負債	275,346	281,366		
支払手形及び買掛金	260,232	264,049		
短期借入金	5,097	6,118		
未払法人税等	1,383	2,568		
賞与引当金	2,535	2,322		
役員賞与引当金	37	37		
返品調整引当金	327	310		
その他	5,734	5,959		
固定負債	29,338	30,815		
社債	9,800	9,900		
長期借入金	353	690		
退職給付引当金	2,099	2,986		
債務保証損失引当金	1,000	—		
負ののれん	2,304	3,046		
その他	13,781	14,190		
負債合計	304,685	312,182		
(純資産の部)				
株主資本	79,825	73,496		
資本金	10,649	10,599		
資本剰余金	25,157	23,597		
利益剰余金	45,471	44,677		
自己株式	△ 1,453	△ 5,378		
評価・換算差額等	△ 2,384	△ 1,278		
その他有価証券評価差額金	2,253	3,204		
土地再評価差額金	△ 4,637	△ 4,482		
新株予約権	62	38		
少数株主持分	3,513	6,079		
純資産合計	81,017	78,336		
負債純資産合計	385,702	390,518		

	当四半期累計 (平成20年4月1日～ 平成20年9月30日)	前中間期 (平成19年4月1日～ 平成19年9月30日)
売上高	409,429	391,050
売上原価	375,730	359,169
売上総利益	33,699	31,880
販売費及び一般管理費	29,329	27,210
役員報酬及び給料手当	13,737	12,735
賞与引当金繰入額	2,525	2,311
役員賞与引当金繰入額	36	37
退職給付引当金繰入額	93	188
福利厚生費	2,277	2,166
車両費	671	561
減価償却費	1,042	1,000
のれん償却額	614	404
賃借料	2,315	2,190
租税公課	388	395
その他	5,624	5,217
営業利益	4,370	4,669
営業外収益	2,220	2,265
受取利息	74	76
受取配当金	256	202
受取手数料	939	904
負ののれん償却額	535	660
持分法による投資利益	11	30
その他	403	393
営業外費用	479	310
支払利息	64	49
仮払消費税の未控除損失	383	223
その他	31	38
経常利益	6,110	6,624
特別利益	444	27
固定資産売却益	0	1
投資有価証券売却益	206	—
退職給付制度改定益	220	—
その他	16	25
特別損失	8,716	374
固定資産処分損	31	106
減損損失	120	225
関係会社株式評価損	5,586	—
債務保証損失引当金繰入額	1,000	—
貸倒引当金繰入額	1,793	—
その他	186	40
税金等調整前四半期(中間)純利益	△ 2,161	6,277
法人税・住民税及び事業税	1,393	2,515
法人税等調整額	△ 701	△ 456
少数株主利益	43	282
四半期(中間)純利益	△ 2,896	3,936

	当四半期累計 (平成20年9月30日)	前中間期 (平成19年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,086	△ 8,560
税金等調整前四半期(中間)純利益	△ 2,161	6,277
減価償却費	1,042	1,000
減損損失	120	225
のれん償却額	614	404
負ののれん償却額	△ 535	△ 660
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△ 46	△ 19
返品調整引当金の増減額(△は減少)	8	2
賞与引当金の増減額(△は減少)	19	△ 53
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△ 38	△ 55
貸倒引当金の増減額(△は減少)	1,668	△ 60
債務保証損失引当金の増減額(△は減少)	1,000	—
受取利息及び受取配当金	△ 330	△ 278
支払利息	64	49
固定資産除売却損益(△は益)	30	△ 1
投資有価証券売却及び評価損益(△は益)	△ 155	—
関係会社株式評価損	5,586	—
売上債権の増減額(△は増加)	△ 132	△ 4,603
たな卸資産の増減額(△は増加)	1,422	954
その他の資産の増減額(△は増加)	△ 343	△ 2,155
仕入債務の増減額(△は減少)	181	△ 6,211
その他の負債の増減額(△は減少)	△ 73	△ 353
未払消費税等の増減額(△は減少)	△ 473	△ 369
その他の損益(△は益)	△ 951	△ 857
小計	6,514	△ 6,763
利息及び配当金の受取額	333	280
利息の支払額	△ 66	△ 46
法人税等の支払額	△ 2,875	△ 3,077
その他	1,179	1,047
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,425	△ 6,766
定期預金の預入・払戻による収支	541	19
有形固定資産の取得・売却・処分による収支	△ 485	△ 691
無形固定資産の取得・売却による収支	△ 87	△ 176
投資有価証券の取得・売却による収支	△ 352	△ 1,014
関係会社株式の取得による支出	△ 1,276	△ 3,428
貸付金の貸付け・回収による収支	△ 1,234	79
その他	△ 530	△ 1,555
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,504	△ 1,757
短期借入金の純増減額(△は減少)	△ 1,414	961
長期借入金の返済による支出	△ 303	△ 144
自己株式の取得による支出	△ 4	△ 1,896
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△ 318	△ 323
配当金の支払額	△ 457	△ 341
少数株主への配当金の支払額	△ 6	△ 12
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 843	△ 17,084
現金及び現金同等物の期首残高	15,851	43,429
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	19	—
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	84	—
現金及び現金同等物の四半期末(中間期末)残高	15,112	26,345

# 東邦薬品60年の歩み — 全ては健康を願う人々のために

おかげ様で東邦薬品は本年9月、創業60周年を迎えました。

1948年（昭和23年）の誕生以来、「全ては健康を願う人々のために」という理念のもと、医薬品卸業界において確固たる地位を築いてまいりました。今後も「共創未来グループ」として、更なる飛躍を目指してまいります。

拠点と絆の広がり

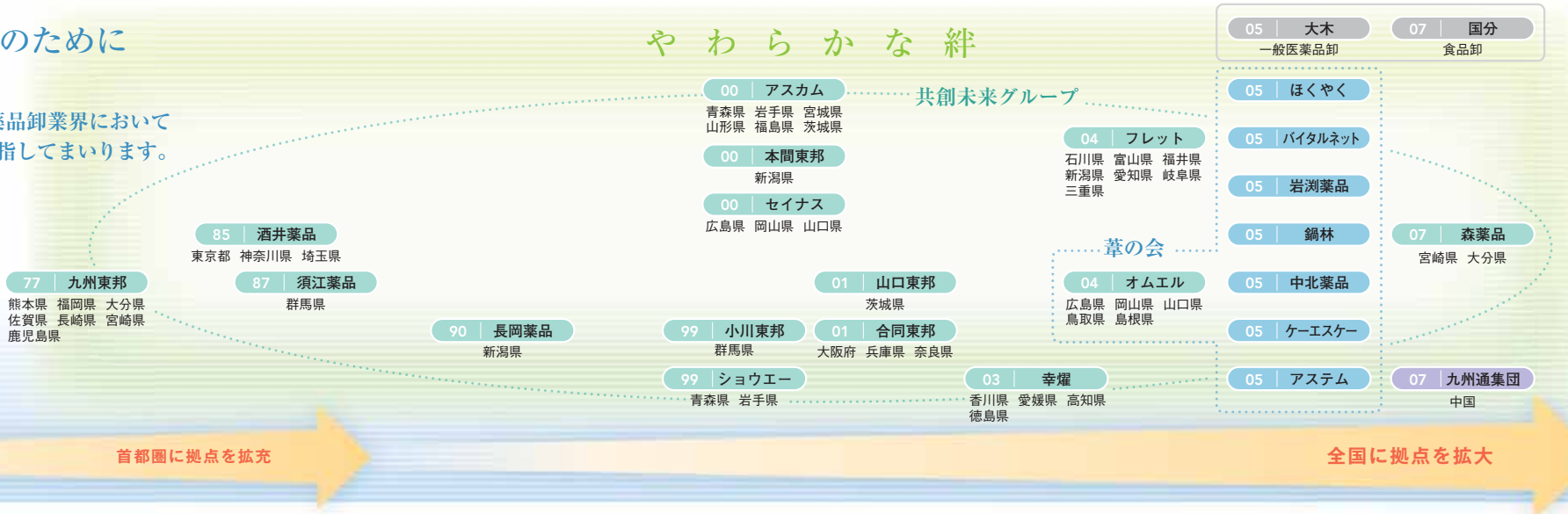


1960年ころの営業部隊

創業から1980年代までの約40年間は、合理的な流通網を築くため各地に拠点を広げた時代でした。1990年代に入って医薬品流通改革が加速すると、当社は「顧客密着型のきめ細かなサービスの提供」という理念に基づき、その手段として顧客支援システムの開発にまい進しました。

また、志を同じくする地域の有力卸との交流を深め、市場競争力と企業価値を高めて共に成長するという精神のもとに、「共創未来グループ」という「やわらかな絆」の形成に至っています。

- 48 東京都世田谷区北沢にて東邦薬品株式会社を設立
- 48 大阪支店を設置



情報システム 顧客支援システム

1948	1950	1960	1970	1980	1990	2000	2008
<p><b>創立</b></p> <p>当社がコンピュータを初めて導入したのは1969年のこと。医薬品流通改革とコンピュータリゼーションが進展する中、顧客支援のための情報システムの可能性にいち早く着眼した当社は、80年代にはオンラインシステムを順次稼働し、ENIFなど顧客視点に立ったシステムを次々と開発。「同じ値段なら東邦薬品から」と顧客に言わしめる程の絶大な支持を獲得しています。その後も変化する顧客ニーズに迅速に対応してシステムの改良・進化を続けており、当社ならではの「脱価格競争による成長戦略」の原動力となっています。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小型コンピュータを導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ オンラインシステムを順次稼働</li> <li>○ MCAによるオーダー・エントリーシステム開始</li> <li>● 在庫管理システム ENIFwinスタート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 診療予約システム LXMATE HeLios スタート</li> <li>○ コールセンターを稼働</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 医薬分業支援システム ENIFファーマシー</li> <li>○ 全社システム統一を完成</li> <li>● 医薬品オーダーシステム ENIFスタート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Meissa導入</li> <li>○ 災害用バックアップシステム構築</li> <li>○ 情報システム</li> <li>● 顧客支援システム</li> </ul>
							<p><b>60周年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● インターネット予約システム SELENE</li> <li>● 薬局経営支援システム e-ENIF.net</li> </ul>

## ■ 経営ストーリー

**創業～ナショナルホールセラーとして成長**

創業者・松谷義範は、独立採算制というユニークな経営手法を駆使して合理的な流通システムを構築し、当社を日本全国に拠点を持つナショナルホールセラーに育て上げました。



創業者・松谷義範 1954年ころの世田谷本社

**医薬品卸でいち早く株式公開、東証一部へスピード上場**

1980年（昭和55年）、医薬品卸としては初めて株式の店頭公開を果たしました。2002年（平成14年）には東京証券取引所市場第二部に上場、さらに2004年（平成16年）には同一部に指定されるなど、順調に成長を続けています。



**全社インフラ整備と競争力強化**

流通改革により医薬品に仕切価格制が導入されるなど、1990年代は医薬品卸業界の激動の時代となりました。当社も組織改革の断行や顧客支援システムの本格化、物流センターの整備など競争力強化に努めました。現在の社名ロゴができたのもこのころです。



TBC東京

旧ロゴ | 東邦薬品株式会社 | 新ロゴ | 東邦薬品株式会社

**中期経営計画を推進、CSR活動も強化**

2007年に初の中期連結経営計画「第三の創業～革新と創造07-09」を策定し、当期に最終年度を迎えました。中計では多くの成果を得られたほか、CSR活動についてもさらなる拡充を図り、2008年6月にはCSR報告書も発行しました。



IR説明会

## 創立60周年記念事業を行いました



医療機関・取引先、社員に対して謝辞を述べる濱田社長

本年9月17日に創立60周年を迎えた当社は、社員、取引先をはじめとするステークホルダーと共に60周年を祝い、今後の成長への思いを新たにすため、60周年記念事業を行いました。

まず本年4月には創業60周年記念ロゴマークを作成し、内外への周知とPRを図りました。



記念ロゴマークでは、楕円（ネットワーク）をクロスさせることで絆を表現すると同時に、中央にハートの形を描くことで、感謝や愛情の気持ちを表現。グリーンで健康・成長・エコロジーを、ピンクで記念・感謝を表現し、ブルーは当社のコーポレートカラーを使用

そして10月7日には東京千代田区のホテルオークラで創立60周年記念祝賀会を開催し、関係者約900人が集って60周年を盛大に祝福しました。挨拶に立った濱田社長は、医療機関・取引先、社員に対して謝辞を述べるとともに、これまでの成長の要因は顧客ニーズに適切に応える顧客支援システム、提案型営業への転換、共創未来グループの成長にあると分析し、医薬品卸業界では最近も大きな変化が生じているが、当社グループは今後もさらなる適応力の強化へ取り組むことを表明しました。

新製品  
ニュースインターネットを利用した  
薬局経営支援システム

2008年2月にサービスを開始した「e-ENIF.net」は、調剤薬局チェーン本部向けの経営管理支援システムです。複数店舗の適正在庫を実現してグループ全体の在庫量を軽減するとともに、売上分析を通じて利益率の向上を図ることができます。ASP（アプリケーション・サービス・プロバイダー）サービスであるため、パソコンとインターネット環境を用意するだけで導入が可能な点もメリットの1つです。さらに調剤薬局チェーンの各店舗においてこれまで目に見えなかった問題点、課題、分析結果を可視化することができるため、本部・店舗で情報を共有し、業務効率化が可能となります。



## 会社データ

会社名 東邦薬品株式会社  
 本社所在地 〒155-8655 東京都世田谷区代沢5-2-1  
 電話番号 03 (3419) 7811  
 設立 昭和23 (1948) 年9月  
 資本金 106億49百万円  
 株式 東京証券取引所 市場第一部 (証券コード:8129)  
 従業員数 5,555名(連結)  
 事業所 営業拠点 111事業所

## 役員

代表取締役会長	松谷 高顕	取締役	山口 雄三
代表取締役社長	濱田 矩男	取締役	中坪 淳晏
取締役副社長	河野 博行	取締役	須江 一成
専務取締役	本間 利夫	取締役*	酒井 裕央
専務取締役	松谷 竹生	取締役*	中里 六千夫
専務取締役	佐藤 茂	取締役*	松井 秀太郎
専務取締役	森久保 光男	取締役	西尾 時明
専務取締役	荻野 守	取締役	寺園 忠勝
取締役	内藤 温子	取締役	窪田 豊治
取締役	小林 孝	常勤監査役	北道 武敏
取締役	加藤 勝哉	常勤監査役*	松宮 幹彦
取締役	小川 健吾	常勤監査役*	松本 禎郎
取締役	杉本 敏夫	監査役	剣持 弘
取締役	若狭 範隆	監査役*	佐藤 宏

(注) 上記\*1の取締役は社外取締役、\*2の監査役は社外監査役です。

## 発行可能株式総数

192,000,000 株

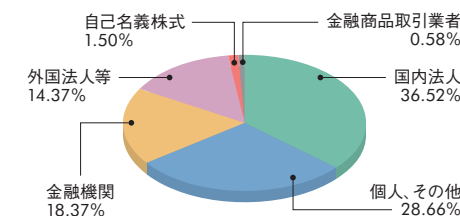
## 発行済株式の総数

59,274,157 株

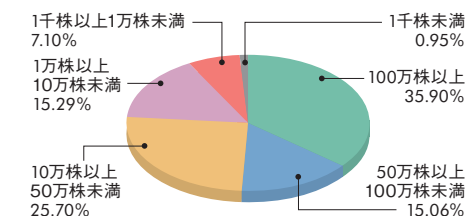
## 株主数

4,529 名

## 所有者別株式分布状況



## 所有株数別株式分布状況



## 株価・売買高の推移 (月足:2006.10~2008.9)

